

(様式2)

校 種	小 ・ ④ どちらかに○	学校番号	1 4	学校名	宇都宮市立国本中学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

令和2年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

【国語】話すこと・聞くことに関する正答率は、市の平均を3.6ポイント、県の平均を2.2ポイント下回っている。話の構成を工夫して、相手に分かりやすく伝えることの正答率が低い。書くことに関する正答率は、市の平均を1.5ポイント、県の平均を1.3ポイント下回っている。資料を作成し、発表する領域をまたぐ問題において、文章構成について意見を述べることの正答率が低い。読むことに関する正答率は、市の平均を5.0ポイント、県の平均を3.4ポイント下回っている。特に説明文の展開に即して内容を捉え、その内容を整理する問題の正答率が低い。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関する正答率は、市の平均を0.6ポイント下回っている。特に単語についての理解に課題がある。

【社会】世界の地域構成の正答率は、市の平均を12.8ポイント、県の平均を11.2ポイント下回り、特に世界の地域区分や地図の特色に関する問題の正答率が低い。世界各地の人々の生活と環境の正答率は、市の平均を5.9ポイント、県の平均を3.2ポイント下回り、特に複数の資料から適切な答えを導き出す「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が低い。世界の諸地域の正答率は、市の平均を3.9ポイント、県の平均を3.2ポイント下回り、特にアジアやアメリカ合衆国の産業での「資料活用の技能」や「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が低い。古代までの日本の正答率は、市の平均を5.5ポイント、県の平均を3.1ポイント下回り、特に古墳時代までの「思考・判断・表現」や「知識・理解」に関する問題の正答率が低い。中世の日本の正答率は、市の平均を8.3ポイント、県の平均を7.1ポイント下回り、「古代までの日本」よりも正答率が低い。特に文章で説明する問題の正答率は低い。

【数学】数と式の正答率は、市の平均を7.9ポイント、県の平均を6.3ポイント下回っている。特に、1次式など文字が入ってくるとつまづいている。図形の正答率は、市の平均を3.5ポイント、県の平均を2.2ポイント下回っている。面積や長さを求める図形の計量の正答率が低い。関数の正答率は、市の平均を9.9ポイント、県の平均を8.3ポイント下回っている。県と市の平均を大きく下回っている。関数についての理解ができていない。基本的な用語の意味(求めたいもの)が分からないため、解決のための手立てが見いだせない。資料の活用に関する正答率は、市の平均を5.7ポイント、県の平均を3.2ポイント下回っている。読み取ったものを表現していく力は乏しく、今後の課題になってくる。

【理科】エネルギーの正答率は、特に計算して物理量を求める問題で低くなっている。数学の平均点が低くなっていることにも関連があると考えられる。粒子の正答率は、県の平均点とほぼ並んでいるが、気体を粒子のモデルと結び付けて考える問題では県平均点と比べて11.3ポイントと極端に低くなった。生命の正答率は、県や市の平均点と比較すると4ポイント以上低くなっている。本分野の平均点は、ほかの領域と比べても、県や市との差が大きい。地球の正答率は、県平均点と比較すると2.3ポイント、市の平均と比較すると1.3ポイントと、やや低くなっている。これは地質分野の問題の正答率が低いことに起因している。

【英語】聞くことに関する正答率が市の平均を約3ポイント、県の平均を約2ポイント下回っている。特に、対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題の正答率が低かった。読むことに関する正答率は、市の平均を約5ポイント、県の平均を約3ポイント下回っている。特に、語形・語法を理解する問題の正答率が低かった。書くことに関する正答率は、市や県の平均を約10ポイント下回っている。特に単語を正しく書く問題については、正答率が低かった。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある生徒は市町村より15.2ポイント低い。また、本や

インターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている生徒は、市町村より 10.0 ポイント低い。学習への興味関心が薄い生徒が多いので、それらを高めることができる授業の工夫が必要である。授業では自分の考えを発表する機会が与えられている生徒が 13.9 ポイント低い。また、授業の中で、目標が示されている生徒の割合が市町村の割合より 22.2 ポイント低い。また、授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている生徒の割合が、いずれも市町村の割合より 11.8 ポイント低い。授業者は、授業の目標の提示・振り返りの時間の確保を確実にし、発表の機会を増やす必要がある。携帯電話やスマートフォンを持っていない生徒の割合は、市町村の割合より 11.5 ポイント低いので、ネットトラブルについての学級活動や集会を行う。自分にはよいところがあると思う生徒の割合は、市町村の割合より 10.9 ポイント低い。自己肯定感が低い生徒が多いと思われるので、学校生活全体を通して生徒を励ましたり褒めたりするチャンスを逃さないようにする。授業の中で、目標が示されている生徒の割合が市町村の割合より 22.2 ポイント低い。また、授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている生徒の割合が、いずれも市町村の割合より 11.8 ポイント低い。

(3) 授業等への取組状況から

家庭学習ノートを継続させ、家庭学習習慣をしっかりと身につけさせていく。また、生徒一人ひとりの発言力や発言できるクラスの雰囲気づくりのために、学級活動や学校行事において、互いに認め合い協力し合う活動計画の工夫を今後も継続させていく。

2 今年度の重点目標

「生徒を認め生かす授業を展開し、学びに向かう力をもつ生徒の育成」

学びに向かう力や人間性を育むための視点を取り入れることで、生徒が自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に学ぼうとする意識や態度を育てていきたい。

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和2年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 基礎・基本の確実な定着

- ★小中一貫教育カリキュラムの推進。（8月、12月の研修を踏まえて通年）
- ★学習支援をねらいとした学習相談の実施（定期テスト前・夏休み中に実施）
- ★家庭学習ノート・スタンダードダイアリーの継続指導及び指導の工夫（通年）
- ★○発表の仕方やノートの取り方など言語環境の整備、基本的な学習態度・学習技能の定着、「学習の約束」の徹底（通年）
 - ・基礎的・基本的な学習内容の明確な把握と教材の精選（通年）
 - ・各授業における「本時のねらい」の徹底（通年）
 - ・「家庭学習」指導を視野に入れた授業づくりと、基礎的・基本的な知識の定着（通年）

(2) 学習指導の工夫・改善（生徒を認め生かす授業の工夫）

- ★「とちぎっ子学力アッププロジェクト」生徒の学力アップにつながる研修の実施
- ・「主体的・対話的で深い学び」への授業改善への工夫（通年）
- ・教科部会の定期的な実施（各調査の分析及び分析をもとにした指導の工夫・改善）
- 話し合いや学び合いを取り入れ、多様な視点から課題について考えさせる協同的な学習（通年）
- ★自分が頑張ったことや以前より成長したことなどを自覚できる自己評価の工夫（通年）
- ★○「ノー部活デー」での家庭学習の推進（ありんこ学習室の利用や学習相談等）
- ★とちぎっ子学習状況調査、全国学力状況調査（11月）学習内容定着度調査、学習・生活アンケート等（3月）の結果の分析と公表
- ・オープンスクールでの授業研究（7月、11月）
- 学習意欲の喚起と主体的な学習態度の育成（通年）
 - ・生徒一人一人の能力・適性等に応じた指導の充実（通年）
- ★効果的な発問、指示、助言、板書、ノート指導法の工夫と改善（通年）

- ・指導と評価の一体化の推進（通年）
- ・授業のねらいの明確化と振り返りのあり方、1時間の授業のスケジュールを考えた授業構築の追究（通年）

（3）読書活動の充実

- ★全校読書の実施（毎日）
- ・ブックトークの実施（通年）
- 図書館だよりの発行（毎月）

（4）家庭・地域との連携・協力

- ★「茶摘み」「学校農園」「体育祭」「学校祭」などの家庭・地域から協力を得た学校行事の実施
- ★学習及びキャリア指導から家庭学習の習慣化を図るための説明（保護者会、各種通信等）
- ★保護者・地域と連携した土曜授業の実施（全3回実施）
 - ①授業、PTA 総会 ②美化活動 ③市一斉土曜授業（国本ウォークラリー）